

# 『大原文庫』をめぐって（第1部）

大阪府立図書館収蔵までの道程

大原社会問題研究所と大阪府社会事業会館 -

## 第1部 大原社会問題研究所の資料蒐集

森田 俊雄（中之島図書館）

### はじめに

筆者は1998(平成10)年度から2002(平成14)年度まで大阪府立中央図書館資料情報課第2係長として大原文庫<sup>(1)</sup>の洋書の遡及入力業務に携わった。前任の福井係長から引継ぎを受け係員の宗保、安井両司書に細かな作業手順を教わる形で始まり、書誌データ作成は大原文庫と旧中之島図書館所蔵の洋書を合わせ年平均8,000冊のペースで進んでいった。

夕陽丘図書館勤務時代、大原文庫の和図書を手に取ることがあったが、洋書はほとんどなかった。この遡及作業で大原文庫の洋書に触れ実に様々な内容と装丁の図書、古書店のシール、所蔵者の書き込み、献呈者のサインを目の当たりにして改めて大原文庫への関心が高まっていった。

大原文庫は倉敷紡績株式会社社長大原孫三郎が1919(大正8)年大阪天王寺区に創設した大原社会問題研究所(以下「大原社研」)の蔵書である。1937(昭和12)年大原社研は土地、建物、蔵書約7万冊を大阪府に譲渡して東京に移転した。大阪府は旧大原社研の土地、建物を大阪府社会事業会館として転用、譲渡の図書も収蔵し社会事業の拠点施設として活用した。その後厚生会館と名称を改め昭和20年には活動を停止した。戦後大原文庫は譲渡条件を巡ってその行方が注目されたが、大阪府は旧大原社研跡地を大阪府立図書館の天王寺別館とし厚生会館から大原文庫の蔵書を移管させた。

戦後天王寺別館の活動は焼け残った旧大原社研の書庫から始まり、1950(昭和25)年開館の天王寺分館を経て1973(昭和48)年夕陽丘図書館となった。大原文庫は貴田春男氏の「<

寸描>天王寺分館から夕陽丘図書館へ」(本誌掲載)にあるように天王寺分館時代に再整理され公開された。1996(平成7)年大阪府立中央図書館が東大阪市荒本に開館し、夕陽丘図書館は廃止され大原文庫は中央図書館に移管された。

このような経緯から大阪府立図書館には幾人かの職員が大原文庫に強い関心と愛着を持ち、加藤和基、石井敬三の両氏はこれまでに『大阪府立図書館紀要』等で大原文庫の紹介や研究を発表している(2)。

筆者は2002(平成14)年中之島図書館開館百周年記念出版物『中之島百年』(3)に大原社研の創設から夕陽丘図書館に至る歴史について執筆依頼を受けた。しかし大原社研についての知識もそれほどあるわけではなく書けるとは到底思えず拒み続けていたが、遑及入力業務で手に触れた大原文庫の洋書とその蒐集への関心が一方にあり、この機会に調べてみるのも勉強になるだろうと東京町田の法政大学大原社会問題研究所を訪ね資料を閲覧し、それを用い大原社研の初期の図書蒐集の様子などを交え一応の歴史は辿ることができた。

今回ここに平成10年以来発行が止まっていた『大阪府立図書館紀要』が再刊になり、『中之島百年』では書くことができなかった大原社研の欧州での図書蒐集のエピソードや図書室の活動等を中心にその様子を描き、大原文庫が最初に譲渡された大阪府社会事業会館の図書室の様子にも触れながら大阪府立図書館に大原文庫が収蔵されるまでを辿ってみたい。

### 1-1 資料蒐集の始まり

大内兵衛(4)は大原社会問題研究所の大阪時代をこんな風に紹介している。『大原社会問題研究所が、大阪時代にやろうとしたことは三つあった。一つは世界で一番いい社会問題研究所をつくらうということ。それには世界中の社会主義および社会運動に関する図書、資料を含めて集めよう。これが高野先生の一つの理想であった。高野先生は本が非常に好きな人で、大原さんもそれにはずいぶん金を出しました。モスクワにいまマルクス・レーニン研究所というのがありますが、それと競争して、それにまけないような立派なものができあがったのです。』(5)、最初に海外で資料蒐集に当たったのは櫛田民蔵と久留間鮫造で、2人が神戸港から旅立ったのは1920(大正9)年10月29日であった(6)。櫛田民蔵(7)は当時34歳。東京外国語大学、京都帝国大学、東京帝国大学に学び、東京帝国大学経済学部時代に高野岩三郎と知ることになる。同志社大学の学生部長から大阪朝日新聞社を経て1919(大正8)年4月高野の勧めで大原社研の嘱託として勤務同年7月研究員となった。

久留間鮫造(8)は倉敷市生まれの26歳。1918(大正7)年に東京帝国大学政治学科を卒業後、一時大阪の住友銀行に入行したがほどなく退社し、友人の林桂二郎の紹介で大原孫三郎に面会、新しくできる大原社研に入所の希望を伝え、高野岩三郎から入所の許可をえた青年であった。

#### 1-2 櫛田民蔵

大阪府立中央図書館の大原文庫には Eltzbacher 文庫が含まれている。この Eltzbacher 文庫入手の経緯について宇佐美誠次郎は以下のように紹介している。

『エルツバッハー(Paul Eltzbacher, 1868~1928)は、アナーキズムの研究者であるとともにアナーキズム文献の収集家として世界的に知られ、大原社会問題研究所が彼のコレクションを譲り受けた当時はベルリン商科大学の教授であった。エルツバッハー文庫は、1921年に櫛田氏がエルツバッハー教授から譲り受けた956冊の基本蔵書をもとに、1922-23年に森戸氏が譲り受けた補充を加えたものであって、補充分は教授がフランス・ドイツ・オーストリア・イタリアのアナキストたちに依頼して基本蔵書に欠けているものおよびその後の出版物を収集したものである。』(9)。



櫛田民蔵と Eltzbacher (法政大学大原社会問題研究所蔵)

1921(大正10)年ドイツで資料蒐集をしていた櫛田はどのような機会に Eltzbacher と知りあったのだろうか。櫛田と Eltzbacher は1921(大正10)年以前から知人であったのだろうか。仮に交流があったにしても櫛田が Eltzbacher と意気投合し、というよりも Eltzbacher が櫛田に魅かれて、と言ったほうが当たっているかもしれない。個人の蔵書を譲渡されたというところに、櫛田民蔵という人物の人柄を想像することができよう(10)。

Eltzbacher が櫛田に送った自分のポートレートが残っている。49 頁右の写真がそうであるが、その台紙に彼のサインで櫛田と 2 人の美しい思い出にという趣旨の添え書きがある。またドイツの櫛田の下宿先であろうか、彼と櫛田らしき人物が写った写真も残っている(11)。大原社研から欧州に派遣され図書蒐集に任じた人は他にもいたが、このようなエピソードを残したのは櫛田を置いて他にいない。

筆者が見た限りで、櫛田の手紙は走り書きというのだろうか、大変読みにくい。読みやすく書くことなど全く拘らない風である。大原社研の研究者であった林要は自著『おのれ・あの人・この人』で、櫛田の人物描写をしている。「そっ歯で、よく食べものの汁などを髭からたらした。」「蓬頭垢面(垢面の証拠は不十分だが)に無精ヒゲの櫛田さん」とか、取り分けた野菜を、食べたばかりのオムレツの残汁に漬けて食べたと書いている(12)。揶揄ととれるこの描写から伺えるのは、何事にも飄然として、あるがままに生きる櫛田の人柄をよく表しているのではないだろうか。飄とした櫛田がドイツの古書店にひょっこり現れ、本の注文をする光景を想像するだけで楽しいものである。

欧州で蒐集旅行中の櫛田の手紙を読むと、若い久留間を気遣い、励まし、時に慰めている。同行した久留間鮫造は気遣いと繊細さの人であったから、彼の拘らない性格に援けられることも多かったのではないだろうか。櫛田には大原社研入所までに屈折した人生経験があったが、彼の経験と天性の人柄が Eltzbacher や図書蒐集を競った当のロシアのリャザーノフ(13)からも一目置かれてロシアに招かれるなど、人と運までも引寄せて貴重な図書を大原社研にもたらしたと言えよう。なお櫛田がドイツで 1921(大正 10)年 8 月 14 日から 1922(大正 11)年 5 月 16 日の間、大量に書籍を購入した書店などはフォック書店、フライハイト社、ユンゲガルテ書店、ストライサンド書店、オエスターヘルド書店であった(14)

### 1-3 久留間鮫造の図書蒐集

久留間鮫造は櫛田と共に 1921(大正 10)年 1 月 7 日ロンドンに到着した。櫛田は 10 日ほど滞在し 1 月 17 日ドイツへ旅立っていった。久留間の最初の住所は、30, Upper Park Road, Hampstead, London であった。ほどなくして Highgate 地区、Causton の下宿に移った。

Highgate はロンドン北部の「高い台地上の住宅地」(15)で、Highgate Cemetery(ハイゲイト墓地)は有名で、墓地にはカール・マルクスの墓がある。久留間は Highgate にマルクスの墓があることを知っていて半年間同宿した星島茂と何度か行ったという(16)。今ではロンドン中心部と Highgate の間は地下鉄で結ばれているが、当時は Causton の近くに

Edgware, Highgate & London Railway の Highgate 駅があり、久留間はここからロンドンの書店に通った。

久留間は 1921(大正 11)年 3 月、研究所から次の電報(17)を受取っている。日付は 1921 年 3 月 1 日、午後 3 時 30 分。文面はローマ字で手書きである。

“mazukaiireni kakare atofumi ”(まず、買いいれにかかれ、あとふみ)

久留間はこの電報を受取る前に研究所に何を相談したのだろうか、その回答としての「買いいれにかかれ」の文面には緊迫感が感じられる。

電報を受け取ってから 1 ヶ月ほど経った、1921 年 4 月 22 日付けの所長高野岩三郎宛の手紙で、高野からの図書購入の指示については、その趣旨を十分承知したこと、また本の買入れには少しも手違いが生じないこと、しかし途中で購入の方針を変更した為、努力のわりには購入が捗っていないことを御推察くださいと書いている。途中からの変更とは、「当初はなるべく一般的に(方面に付いても年代に付いても)蒐集」する方針だったが、丸善でも蒐集できるような本は止め、ロンドンでしか蒐集できない「オーエニズムとチャーティズムとを中心として先世紀前半迄の労働問題関係文書」(18)を集めた。労働問題関係文書は、「ネグレクトせられて居ました事とて目録を作って本屋に渡しても十分に集めることが出来ませぬ、それでやむを得ず 2 週間餘りもかかってミュージアム・ブックストアと云う本屋(此種のを一番多く蔵して居る店)の穴倉から山積した本を出して来て其中から選り出しました。先週の土曜日にやっと穴倉漁りを終りました。」(19)と報告している。その結果「オーエンのものは殆ど完全、チャーティズムのものも比較的善いコレクション」が出来たが、チャーティズムの有名なものは、ロシア政府の代表者がきて購入した後だったという。後に久留間は「下宿におちつくとすぐ、ぜひこれだけではなくてはならぬとわかっている本のリストを作って本屋にわたすと同寺に、猛烈な俄勉強をはじめた。経済学史、社会思想史、社会運動史、といった種類のものをいろいろ読んで、第二次、第三次とリストを作って本屋にわたし、またチャーロング・クロスを中心にかなり方々歩きまわって古書漁りもしました。」(20)と回想している。

#### 1-4 久留間とイギリスの書店

大原社研に送られてきたロンドンの古書店のカタログ(21)から久留間の回想の中にある The Museum Book Store、George Harding、P. S. King & Son、Luzac & Co. の 4 軒を紹介する。

The Museum Book Store は、大英博物館の正面ゲート近く Museum Street にあった。

1926(昭和 5)年発行の The Museum Book Store のカタログ 102 号は “ Political economy  
An extensive collection of important books and pamphlets relating to all braches  
of political and social science ” というタイトルである。内容は Agriculture にはじ  
まり、“ Chartism and the chartist movement ” “ Comers and trade ” “ East India trade ”  
“ Fisheries ” と続き、最後は “ Early socialist movement ” “ Transport ” で終わる。  
163 ページ、2,834 タイトルが掲載されている。掲載されている書籍の出版年代は 17 世紀  
から 20 世紀初頭までの本である。1926(昭和 2)年当時の経営者は L.Kashnor。久留間が穴  
倉にもぐりこんで探したというのに相応しい品揃えの豊富な店である。

George Harding 書店は、大英博物館の西、Great Russell Street にあった。ここで久留  
間は経済を中心とした書物を集め、George Harding から発送している。1921(大正 10)年発  
行のカタログのタイトルは “ Catalogue of old & modern books etc. ”、古書店兼新刊本  
を扱っていた。内容は Part1 ~ Part5 に仕分けされている。Part1 は考古学、伝記、年代記、  
歴史、法律、哲学、地誌学等。Part2 はチャールズ 1 世、Civil War(チャールズ 1 世と議  
会の争い)、イギリス共和国、チャールズ 2 世関係。Part3 は女性問題関連図書。Part4 は  
書誌学。Part5 は最新入荷分。カタログ中最古のものは 1640(寛永 17)年に出版された  
〔Parker 著〕: Case of ship mony briefly discoursed according to the grounds of law,  
policie, and conscience, presented to the High Court of Parliament.である。17 世  
紀の出版物をかなり多く販売している。

政府刊行物はキングで、東洋関係の資料はリュウザックで蒐集したという。

キングとは、P. S. King & Son のこと。1819(文政 2)年の創業である。ウエストミンス  
ター寺院の西を南北に走る Great Smith Street と Orchard Street が合流する付近にあっ  
た。1927(昭和 2)年発行のカタログ King ' s monthly list の書店名の下段にサブタイトル  
風に、Publishers,Parliamentary and General Bookseller, Bookbinder and Printers.  
と印刷されている。キングはイギリス政府刊行物の販売者であり、書籍の製本、印刷、出  
版者を兼ねた書店である。カタログを見ると統計書、年報、報告書や国際連盟、コロンビ  
ア大学出版局の出版物や The American political science review なども扱っている。

1921(大正 10)年 6 月 15 日付けの P. S. King & Son から大原社研宛の手紙(22)には、久  
留間が選んだ Parliamentary Papers を 3 つの大きな木箱で送ったこと、将来にわたって  
大原社研にその都度必要に応じて、議会関係、公的刊行物、政治、経済、社会関係の図書

を提供できるであろうと書いている。実はこの Parliamentary Papers の蒐集では King 側の対応に久留間は苛立ちを隠さず「大部なので今二週間もかゝらねば蒐集が出来ぬと云います(英国人の呑気で懶惰なのに殆んど愛想がつきます)」と高野に書き送った(23)。蒐集に追われる日々と、ドイツ行きを控えた久留間の正直な気持ちであった。

リュウザックは Luzac & Co. で 46, Great Russell Street にあった。1928(昭和 3)年のカタログのタイトルは“ A short list of secondhand books on the history & geography, etc., of the Orient ” である。タイトルの通りロンドン、パリやインド、エジプトなどで出版された仏教、ヒンズー教関係の書籍、中東・アジアの芸術、宗教、神話、文学などの出版物が掲載されている。1904 年発行、狩野元信の画の写真複製本 “ Masterpieces of Motonobu ” (2vols.) は 18 ポンド 3 シリングである。

久留間はマンチェスターやオックスフォードにも出かけた。マンチェスターではサットンという古書店を訪ねている。サットンとは Albert Sutton のことで、店は 43, Bridge Street, Manchester にあった。1929(昭和 4)年のカタログには、B. Sutton, H. Sutton の名前が列記されているので彼等が経営者であろう。1929 年発行のカタログのタイトルは “ Catalogue of interesting literature ”。カタログは辞書体目録風に著者と主題がアルファベット順に配列してある。これを見る限りでは社会科学関係の書籍が目立って多いわけではない。掲載された古書の出版年代は 17 世紀から 20 世紀初頭まで。最古は 1638(寛永 15)年出版の Northampton shire の主題の下に配列された Reynoldes 著の “ Sermon touching the peace and edification of the church, preached at Daventry, June 12, 1637. ” である。久留間はサットンの地下室で「ローソク片手に発掘作業」をしたと回想している(24)。

後年久留間は自分が図書委員に選ばれ、「とくに外国へ行って本をずいぶん集めて来た関係から、外国のいろいろの古本屋からカタログを送ってくる。」(25)それを見て本を発注したと回想している。カタログが残る B. H. Blackwell, John & Edward Bumpus, The Communist Book shop, Grafton & Co. なども久留間が訪れたイギリスの書店であろう。

#### 1-5 図書蒐集リスト

1921(大正 10)年 7 月 19 日ロンドンを出航した香取丸で大原社研に送付した図書のリストには 148 冊がリストアップされている(26)。それについて大阪府立天王寺分館が大原文庫の再分類に使用した日本十進分類法第 6 版の主題名称に従いその一部を紹介する。

労働問題、A worker looks at history. By Mark Starr, 社会病理、Perils of wealth and poverty. by Canon Barnett, 経済学・経済思想、Wealth. by Edwin Cannan, 婦人問題・性問題、Straight talks to women. By Mary Scharlieb, 社会政策、Social insurance unified and other essays. by Joseph L. Cohen, 労働者保護、The children of the unskilled. by E.Llewelyn Lewis. 共産主義、Creative revolution. by Eden & Cedar Paul. 労働組合及び運動、A short history of the modern British working-class movement. by W.W.Craik, 婚姻問題、The disinherited family. by Eleanor F. Rathbone. 労働条件、The wages of men and women. by Mrs. Sidney Webb. 労使協調・温情主義、The whitley system in the Civil Service. by J.H.Macrae Gibson.などである。この他には社会保健、婦人解放・男女平等論・婦人参政権、住宅問題、国語教育、民族学、産婦人科、鉄道運輸関係の図書が書かれている。

また Stevenson の Treasure Island. Edward Bellamy の Equality、J.S.Mill の Utilitarianism. Lenin の The state and the revolution, Kautsky の Dictatorship of the proletariat. More の Utopia, 辞書では Japanese English dictionary, French Japanese dictionary, Baedeker のガイドブック Belgium and Holland なども購入している。

この蒐集リストは、櫛田との約束で久留間が購入を受け持った経済学史、社会思想史、社会運動史関係の図書の一部ということができる。このリストを見て本来なら蒐集範囲ではない宝島やユートピア、ガイドブックがあったことに何か安堵した思いである。何故なら異国の地で来る日も来る日も社会・労働関係の専門図書を探し続けた久留間は神経衰弱気味になっていった(27)。専門書ばかりを集めていたら久留間ならずとも神経衰弱になるうというものである。宝島やユートピアやガイドブック何でも良い自分の好きな本を買うことで束の間の休息を見つけた久留間を想像したからである。

図書の蒐集とは、“人間的な余りにも人間的な”行為ではないか。図書を目の当たりにし蒐集しようとする人間には様々な迷いや思いが交錯する。そして自分に何かを諦めさせるように迷いを断ち切りそれを買う。しかしそれで安心したわけではない。買った傍からまた迷い、反省し、悔やむことになるのである。これは図書を蒐集する人間に共通の偽らざる気持ちであり思いではないか。久留間を神経衰弱に陥れたのは蒐集という魔物であった。

筆者は久留間が蒐集した貴重書や稀購書に興味はない。むしろその辺に転がっていた本、たいして価値はないけど面白そうと思って久留間が買った本に、彼の蒐集への想いを感じ



取りたいからである。しかしそれはないものねだりと言うものであろう。

#### 1-6 蒐集と留学生

久留間は蒐集生活から健康を害した。幹事の高田慎吾が久留間鮫造に宛てた 1921(大正10)年6月7日付けの手紙がある。その中で高田は久留間の健康を案じ、同時に『御手紙に依れば色々内地では得難い珍本が殷々に集りますそうで(1字不明)に結構に存じます。貴方の海外に於ける御努力が今後研究所の研究調査の上にどれ程多大な効果を齎すかを思いますと(1字不明)に感謝に堪えません。』(28)と書き、また書庫を現在増築中で8月には完成する予定だとも書いている。幹事高田の優しい気遣いが感じられる手紙である。久留間はこの手紙を受取った後にロンドンを発ち、櫛田のいるドイツに向かう事になるのである。ただ、久留間の蒐集旅行には、ちょっとした行き違いが生じた。

久留間が命じられたのはあくまでロンドンでの資料蒐集であった。ところが途中で留学生に変更したいという希望を洩らしたらしい。それは櫛田の意見でもあったようだ。留学生への変更を申し出たのは、櫛田・久留間が航海中に何れかの停泊地から手紙で願い出たらしい。それは久留間がロンドンに到着して早々に、幹事高田に宛てた手紙からの推測である。文面の最初に謹賀新年と書いてあり1921年1月30日にロンドンで書かれたものと思われる(29)。その手紙の中で久留間は旅程の変更は櫛田の旅程の変更に伴うもので、櫛田の厚意と忠告であると述べ、希望が適わなくても自分としては不本意とも失望することもないと書いているからである。

この申し出に対し幹事高田は、2人の洋行が決定した経過や所員への説明からして、途中で名義を留学生に変更するのは「面白くない結果があるように思われて仕方ありません。」と書き、久留間の滞欧期間が当初半年であったものが、1年2年それ以上に延びても「本の買い入れと(1字不明)研究所との連絡を計ることに努めてくださる方がよいと思います。」(30)とし、大原孫三郎も久留間の半年間の出張には無理があり、海上の日程は除く方向で考えていたことを伝え、更に「期日が延びるのは仕方がないとして、研究所の関係者には矢張り初めの通りにしておく方がよいと思います。」(31)と研究所を取り仕切る幹事としての気遣いを見せている。この手紙の大阪・高津局の消印は1921年3月26日である。

“1-3 久留間鮫造の図書蒐集”で紹介した“まずかいいれにかかれあとふみ”の電報はこの辺りの事情が背景にあり、余計なことは考えずにまず蒐集の仕事に専念せよと、若き久留間鮫造に対して幹事高田慎吾が檄を飛ばしたのであろうか。

この手紙の宛先は、Upper Park Road, Hampstead, London となっていて、その文字に打消しの線が引かれ、下に Highgate の住所が書かれている。Hampstead の滞在は短期間であったのであろう。

結局久留間は留学生扱いにはならなかったが、櫛田と共に約 2 年間の蒐集生活を送り、無事に帰朝したのは、1922(大正 11)年 8 月 15 日であった。同年 9 月 21 日の『日誌』(32)には次の記事がある。

『午後 6 時より食堂に於いて櫛田、久留間両氏の歓迎会を開く。出席者大原、小河、両評議員他所員 22 名。河上、河田、米田、柿原、(2 字不明)欠席の旨通知来る。  
食后会議室にて櫛田、久留間両氏の報告あり 10 時閉会』

2 人を送り出した大原孫三郎、小河滋三郎は出席したが、河上肇、河田嗣郎、米田庄太郎、柿原政一郎は欠席だった(33)。彼らにとっては気骨の折れる蒐集の旅(34)であったが、2 人を大原社研最初の図書蒐集に派遣した大原孫三郎たち首脳陣の人選は実に見事であったと言ふべきであろうか。

なお書籍購入費であるが、櫛田は 2 万 6678 円 20 銭 1 厘(3179 磅 13 志 11 片)。久留間は 2 万 102 円 7 銭 4 厘(2206 磅 7 志 2 片)であった(35)。

#### 〔久留間鮫造に関するメモ〕

久留間鮫造がイギリスへ到着してから図書蒐集のため猛勉強を始めたが、それは船中で櫛田と蒐集分担の話しになり、「経済学、社会主義、社会運動の文献を主として」集めることになったからである(36)。また当初久留間は、櫛田の助手的存在として欧州に同行し蒐集を手伝うということだったため、特に文献について勉強していなかったこともあるだろう。

久留間はまだ経済学の専門家ではなかった。これから研究生生活に入ろうとする青年であった。回想によれば欧州航路の途中、櫛田にイギリスでの蒐集を半ば強制された形でしぶしぶ引き受けさせられたのである(37)。櫛田が強制したのなら、久留間に半年で帰国されたのでは困るので、久留間を単なる蒐集助手の立場から、留学生扱いにして長期の滞欧生活ができるよう大原社研首脳陣に願い出た。あるいは半年で蒐集するのが無理と考えた櫛田が、首脳陣に日程の変更と久留間の留学生扱いを願い出たとも考えられる。櫛田自身は留学生扱いだった。それについて先に紹介したように幹事高田慎吾は困惑し否定的見解を久留間に送付した。

久留間は蒐集を押し付けられたが、そのことは所長の高野、幹事高田には報告しているはずである。してみれば、高野は久留間に文献蒐集の指示を与えざるを得ない。従って久留間の手紙を紹介したとおり、高野からの指示があり、そのとおり蒐集はしていますと報告した。高野が久留間にどのような資料の蒐集を命じたかはわからないが、具体的な資料名を挙げたわけではなく、学問分野での指示であろうし、かなり広範な分野を指示したのかもしれない。しかし久留間は途中からある程度分野を限定し、日本の丸善でも蒐集ができるものではなく、ロンドンでしか入手できそうもない文献の蒐集を図った。それについて高野は余計なことをするなど叱ったわけではないから、久留間の判断を尊重し、幹事高田はそれを感謝しているのは手紙のとおりである。

久留間が猛然と蒐集したのは労働問題関係文書であったが、これは高野からの指示がなく彼の独断であった。

#### 1-7 初期の資料整理

大原社研は創立時の規定の中で、図書主任1名、司書若干名を置くことを明記していた。大原社研の歴代の図書主任は初代が森川隆夫、2代が内藤赳夫(38)であるが、2人とも研究員に昇格している。

森川は1884(明治17)年生まれ。広島県出身、採用当時35歳。京都帝国大学文科(言語学)を1915(大正4)年に卒業した文学士であった。京大の附属図書館には1915年8月31日から1919(大正8)年3月31日まで勤務した(39)。

森川が大原社研の図書主任として採用されたのは1919年4月である。1919年の大原社研の『日誌』に森川は事務長という肩書きで書かれている。当時の森川は単なる図書主任ではなく事務長も兼ねていた。幹事の高田慎吾、庶務主任の鷹津繁義(鷹津は『日誌』で書記と書かれることもある。)らと研究所の予算事務も担当していた。森川は1920(大正9年)年4月に研究員となる。

森川の入所当時の年俸は、同時期に入所した研究員大林宗嗣の1千860円と同額であった。年俸が1千500円、手当が年360円で合計1千860円である。この額は1919年3月研究員として入所した久留間鮫造の年俸よりも高給である(40)。1千860円という年俸であるが、当時の大阪府立図書館長の年俸は1千600円、司書は576円であったからかなりの高額といってよい(41)。図書主任兼事務長の立場がそうさせたのだろうが厚遇を以って迎えられる。

図書主任森川の最初の仕事場は、大阪市西区江戸堀北1丁目の倉敷紡績内の臨時図書室であった(42)。西区江戸堀北1丁目は、頼山陽生誕の地や関西大学の前身である大阪法律学校があった土地である(43)。ここに倉敷紡績が出張所を開設したのは1918(大正6)年4月15日のことであった(44)。

森川が臨時図書室で見た資料の中には、櫛田民蔵、久留間鮫造がロンドンやベルリンなどで蒐集した資料はまだなかった。しかしこの時点で既に内外の図書が倉敷紡績の臨時図書室集められ、高野岩三郎が図書分類整理の指導をしている(45)。

1922(大正11)年の研究所の『日誌』には、多忙な図書整理や分類作業を伺わせる次のような記事がある。

“9月21日、平岡君に休職中図書整理賃(14日分1日1.50)21.00円支給”

“9月23日、樋口恒一郎君を臨時図書整理員として採用月手当50.00本日より勤務”

この時期は櫛田、久留間が外国で購入した書籍が続々と研究所に運び込まれていた時期であった。そのため1922年9月23日の記事によれば、1階の閲覧室は当時共同研究室として使用されていたが、急遽購入書籍の保管場所とすることになり、労働年鑑編集室を会議室に社会事業年鑑編集室を所長室に、所長室は東隣に移転。あおりを受けて細川嘉六・水谷長三郎、櫛田・久留間の研究室がそれぞれ移動させられた。どうやら研究室は2人1組で使用していたようである(46)。1922年当時閲覧室はまだ一般公開されていず、公開されるのは1924(大正13)年4月のことである。

“10月6日、山岡実四郎君を臨時図書整理員として採用月手当40.00”

“10月13日、小泉鉄氏(書籍分類を委託す)今朝所長同伴来所、本日より分類に着手”

“10月16日、小泉鉄氏に臨時図書分類事務嘱託の件”

“10月24日、山下一雄君を臨時図書整理員として採用”

“11月16日、図書部臨時整理の為1箇年の契約にて井上進一氏を採用す、本日より出勤”

この他に図書カードのタイプ打ち1,202枚を個人に外注している。この間に邦文タイプライター、机などが続々と買い込まれている。1922(大正11)年は図書整理の大繁忙期であった。

#### 1-8 事務会の決定事項

大原社研の事務上の問題は毎月第1木曜日に開催された事務会に於いて決定された。

1930(昭和5年)年5月23日に開催された事務会での資料(47)に添って資料収集事務の流れと事務会の役割について触れておきたい。

この時の事務会の出席者は、所長高野岩三郎、森戸辰男、細川嘉六、久留間、森川、鷹津繁義、越智道順、後藤貞治、笠信太郎、鷹羽であり、内藤は出張中であった(48)。事務会での議題は次のようなものであった。高野の報告は(1)大原夫人葬儀ニ際シ研究所ノ執リタル敬悼方法ノ件(2)「研究所雑誌」発行ニ関スル件(3)内藤君出張ノ件(4)図書、資料室ニテ雇員各一名試験的採用ノ件(5)会計監査ヲ細川氏担当ノ件。その他協議事項3件であった(49)。

また資料取扱い事務については次のように決定された。受け付けた文書、刊行物は事務室受付係で受信簿に記帳した後、資料室、図書室に回付する。受け取った各室は受信簿に受取印を押印し授受の責任を明らかにする。ただし書店が直接資料室、図書室に持ち込んだものは別とする。この決定以前、寄贈図書の記帳、礼状送付は一括して事務室が処理していたが、決定以後は資料室、図書室各室の責任で受け付けから礼状の発送まで行うこととなった。

資産台帳上の決定事項では、「櫛田、森戸両氏独乙より臨時購入洋書価格評価の件」がある。購入当時マルクの暴落で法外に廉価な価格で購入したが、その購入価格をそのまま資産に繰り入れることになると、将来紛失、弁償の際に不都合が生じるのではないかと、よって適正な価格に評価し直し、台帳に記載するのが妥当ではないか。いまだそれが実現していない。当該図書の台帳の金額欄が空白で、計算することができない。至急再評価を行うことが望ましい。という提起があり、高野の意見で図書室と事務室で協議し処理をすることが決まった。

図書受入伝票への価格記入について、Hugo Streisand(50)を初めとする外国書店からの洋書の購入、和書寄贈本の価格評価、予約出版物、メンバーシップ出版物の価格の図書受入伝票への記入を図書室が行うこと等が決定された。

以上の決定事項の最後は次のような厳しい叱声の言葉で結ばれている。

「研究所重要資産ノ最タル整理済ノ図書ガ右ノ如キ原因ノ為ニ資産ニ繰入レラズシテ宙ニ浮ケルガ如キ有様ニアルハ、ヨシ危惧スルガ如キ問題惹起セズトスルモ資産管理上永クカヽル不健全ナル状態ニ置ク事ハ如何カト思ハル。」

#### 図書室の決定事項

(1)購入図書 購入図書受付簿を備え

記入事項 受付日付、受付者の捺印、著者名、出版年月日、定価、  
購入先

(2)寄贈図書 寄贈図書受付簿を備え

記入事項 受付日付、受付者の捺印、寄贈者名、寄贈図書の著訳者  
名、書名「出版年月日」及び「定価」。礼状発送の年月日（礼状は図  
書室より発送す）。礼状の形態（例えばはがき又は封書等）

寄贈交換依頼簿を備え

寄贈図書を選択し図書委員の許可を受け寄贈依頼状を発送す

寄贈図書にして欠本、欠号の補充及び継続を要するものは定期に之  
を調査して寄贈依頼状を発する

寄贈図書の成績は随時図書委員に報告する

記入事項 発信日付、著者、書名、部数、冊数、出版年月、定価、発行所

(3)購入寄贈不明の図書 図書臨時受付簿を備え

到着の図書にして購入か寄贈か不明なるものの受付を正確にする  
所属判明次第購入或は寄贈簿に記入す

記入事項 受付日付、受付者の捺印、著者名、書名、出版年月、定価、発  
送先

図書室報の発刊----

記載事項

1. 研究所へ購入、寄贈の図書
2. 定期刊行物の社会問題に関する記事索引

この時課題に挙がった「図書室報」の発刊であるが「資料室報」のように独立した形で発行はされなかった。それは『大原社会問題研究所雑誌』が1933(昭和8)年11月5日発行の第10巻第3号で終刊となり、1934(昭和9)年7月8日に『月刊大原社会問題研究所雑誌』として復刊された時、巻末に図書室が編集した「社会問題関係主要雑誌記事目録」と図書室・資料室共編の「新着図書資料」も掲載しその責務を果たすこととなった。

前記の「図書室事務取扱上の申し合せ決定事項」によれば、当時の図書室のメンバーは、内藤赳夫、荻野秀一(51)、榎木通夫であり、次のような決定事項が書かれていて、図書委員(研究員)を長とする図書室の寄贈、見計いの様子が把握できる。

(1) 寄贈については、1.寄贈図書(単行本並に定期刊行物)の依頼は、図書委員の許可を得てから行う。2.寄贈依頼の結果を随時図書委員に報告すること。

(2) 見計注文は、1.係員は図書目録類を蒐集し図書を選択発注する。その際、必ず図書委員に認可を得ること。

以上の決定事項とは別に見計いについては以下の資料(52)がある。

シュトライザンド・丸善・登美屋 図書委員認定 重複調査 購入簿記入  
雑カード作成及繰込 受入伝票作成(図書室保存) 各書店請求書(現品ト照  
合ノ上主任サインス) 会計課ニテ支払

見計い図書については次のような添え書きがある。

見計図書ノ注文

見計図書ノ書店ニノミー任セズ適当ト思ハレル図書ヲコチラヨリ積極的ニ注文センガタ  
メニ、係員ハ図書目録類ヲ蒐集シ適当ト思ハレル図書ヲ選択シ、又所員ヨリ依頼セラレ  
タル見計注文図書ヲ整理シ、図書委員ノ認可ヲ得テ注文ス。

見計図書ノ成績調査

見計注文図書ノ原簿ヲ作り、定期ニ成績ヲ調査シ、其未到着ノモノヲ督促スル事。

見計注文図書ハ定期又ハ随時図書委員ニ報告スル事。

法政大学大原社会問題研究所にはHugo Streisandの見計い用図書書リストが残されている。期間は1927(昭和2)年から1935(昭和10)年10月12日までのものである。

見計い用図書リストを見ると、中に返品と赤で書かれた文字があり、図書主任森川の押印がある。1932(昭和7)年森川死去後は後任の内藤が押印している。返却の文字などから見計いは現品を見て選択した可能性がある。1929(昭和4)年にHugo Streisandに送付したと思われる英文タイプで打たれた手紙の下書きがある。それには返品した書籍が請求書に入っていたから次の請求書でその分差し引いて請求するように指示している。また必要な書籍は社会主義、経済学で哲学、文学、宗教は必要がないと書いている。哲学、文学、宗教を蒐集しなかったわけではないが、Hugo Streisandのような社会科学の専門書店からは買うことがなかったのであろう。

丸善(大阪心斎橋)、登美屋(大阪西区阿波堀)の見計いが現物を見た上で購入手続きされたものは今のところわかっていない(53)。

〔図書室に関するメモ〕

大原社研の図書室の活動等に関しては、資料がほとんどなく調査されることも多くない。

ここで図書室というのは『大原社会問題研究所雑誌』や大原社研内部資料での表現である。そして図書室とは、室の名称ではなく、図書の蒐集から受入れ整理までの業務を担当する部署という意味である。

大原社研の図書室は何時からあったのか。厳密に言えば1930(昭和5)年以前は確認できない。

森川隆夫が図書主任として採用されたのが1919(大正8)年4月。この当時の大原社研はまだ独立の建物を持たず石井記念愛染園<sup>(54)</sup>の中にあった。石井記念愛染園は手狭で臨時図書室は前述したように倉敷紡績にあり、そこで図書の発注業務、分類、整理がされていたのであろう。しかしそれはまだ図書室の業務ではなく森川個人の仕事であった。1919年から1924(大正13)年の図書室の一般開放までの5年間は“図書室以前の時代”である。

『大原社会問題研究所栞』<sup>(55)</sup>は1926(大正15)年に越智道順が作成した<sup>(56)</sup>。その平面見取り図を見ると、図書事務室の名称がある。そしてこの年に図書委員ができた。図書室委員ではなく“図書委員”である。図書委員は研究員の役割で図書購入・寄贈の最終決定者である。図書委員制度は導入されたが、図書室の業務については『大原社会問題研究所五十年史』<sup>(57)</sup>に説明がなく、明確にはならない。この時分類は研究員の共同作業に決定した。

1926年以前、研究員たちは自由に図書を発注していたのかもしれない。そうであれば図書委員導入により無断で図書の発注を禁じたということになる。この時分類の共同分担と同時に「会計の内部監査に当たる会計委員を設けること」が決まっている。これにより予算執行面でのチェック機能が加味され、自己検査を厳密にし、従って図書の選定購入も曖昧さを排除し委員制度を導入して、購入の決定権を1人に集約し、所員の勝手を制限し図書発注に厳密さを求めたものであろう。

1930(昭和5)年に至ってようやく図書室の姿が浮かび上がってくる。

まず図書購入先である。これを見計いという形で整えた。ここで初めて図書室が主体となって図書の選定から購入までを統括する体制ができたのである。図書室の職員に図書選定・寄贈依頼の権限が与えられている。無論最終判断は図書委員である研究員にあるが、図書室の職員の図書収集の役割がようやく認められたということであろう。1930年の図書室、資料室との合同会議でもわかるように、図書の管理的な部分は後回しにされている。



大原社研の発足当時の図書受入簿ともいうべきものに、「仕分簿」(58)がある。仕分簿には、購入年月日、書名、購入価格が記入されているだけである。仕分簿のような簡単な書式で購入図書等の管理がされて10年以上が経過したのであろう。

1930(昭和5)年の事務会で、当初外国で購入した書籍が資産に組み込まれていないとの指摘を紹介したが、櫛田が外国で購入した書籍の価格を、庶務主任の鷹津繁義が時価で円に換算したと宇佐美誠次郎が紹介している(59)。(櫛田の書籍が大原社研に到着したのは1921(大正10)年から1922(大正11)年ごろのことである。)この時の換算が法外に安価であったため台帳未記入となったのだろうか。その最終調整を鷹津がいた事務室と図書室で協議し決定することとなったのだが、1930年のこの苦言は1936(昭和11)年に現実となり、大阪府に図書約7万冊譲渡の際、貴重な資料も極めて安価な譲渡額となったのであろうか。1922年の財団法人登録時の和洋図書合計冊数は11,519冊、評価額は3万2829円であった。単純に7倍しても20万円は超えることになる。因みに1922年当時の土地の評価額は10万円、建物10万円、書庫5万円、それに図書を合わせて約29万3000円(60)。それを1936(昭和11)年20万円で購入したのだから本当に安い買い物であった訳である。「森戸辰男より久留間鮫造あて」1936年11月25日付けの手紙に、「図書の方は府の購入目的、支払うる金額が判明せず、同時に当方の譲渡部分の明細が出来かね、旁々足踏みの状態です。」とある(61)。この表現を見る限り図書の評価額の積上げと言うよりも、大阪府が図書一括の値段を提示する形での交渉だったようにも思われる。

#### 1-9 大原社研の図書と資料

大原社研は図書資料を図書室と資料室で受け入れた。図書室で受入したものが“図書”と呼ばれた。和洋の単行本、叢書、全集等で大原社研の図書分類表によって分類された。

一方資料室が受け入れたものは“資料”と呼ばれ、官庁、団体等が出版した調査、統計、報告書等の資料であり日本労働年鑑、日本社会事業年鑑編纂のための資料として受入された。

資料はA類からF類の6種類に区分された(62)。

A類 統計年報、地方官公庁統計書類・・・発行主体別に整理

B類 臨時的に発行される調査報告書及其他の資料・・・細分類して整理

C類 定期的刊行の調査、統計、報告書及其他資料・・・発行主体別に整理

D 類 定期的刊行の官公私報及諸機関紙類

E 類 新聞資料・・・新聞切抜分類による整理

F 類 実地調査報告

これらは、購入、交換、寄贈等の方法で蒐集された。『月刊大原社会問題研究所雑誌』の1934(昭和9)年1月から“資料”として掲載されたのはA~D類の資料の内A類・統計類とB類・調査類であった。

寄贈資料は事務部(1929(昭和4)年当時の表現、事務室と同義)が寄贈図書原簿に記入する。次にA類からE類の整理は以下のように行われた。

A類B類の資料整理~資料室は単行本的な資料につき、「本カード」(小分類で整理)と「雑カード」(発行主体別に整理)を作り、必要なものは内容索引を作成する。ここで受入られた資料は、1年乃至数年後に図書部に回付され普通図書に準じて整理される。ビラ、ポスター、リーフレット、写真などは台紙に貼って綴込みして整理する。

C類D類の資料整理~受付簿に記帳し、必要なものは記事索引を作成する。1年後には図書部に回付し製本して整理される。

E類の資料整理~24種の新聞と大阪朝日、大阪毎日、東京日日の地方版から必要記事を「切抜分類」の符号、新聞略名、月日を色鉛筆で記入、切抜1件1枚ごとに台紙に貼り、分類整理して『日本労働年鑑』編纂として利用した後は必要部分を残し目次を作成し整理する。

B類だけは「B類資料小分類」によって分類された、大項目だけを記せば、社会状態、社会運動、施設及対策、社会思想家運動、国際労働問題、政治(国別に分類す)、経済、財政、人口、社会思潮である。この大項目はアルファベットの小文字を用いて細区分された。

例えば、「大阪機械工作所争議の真相」という資料は、B類分類表の .社会運動の a .労働争議 であるから分類は、 .a とされた。

またB類には、雑誌論文の抜刷、別刷や『大阪風水害誌』(大阪市)、『樺太土産』(秋守常太郎)、『子は国の宝』(日本少年保護協会)といった“単行本的”と称される図書も、内容が日本社会事業年鑑等の編纂に必要と看做されたものは資料扱いにされた。

“資料”は年鑑編纂を目的として収集されたので、一般書とおぼしきものでも内容が検討され厳密に“図書”と区別された。“資料”は受入時点から年鑑編纂用であり、一般の関

覧対象ではなかったから、図書室利用者は閲覧することはできなかったであろう。説明にあるように1年乃至数年で図書室に送付され、再整理されて閲覧に供された。

図書については、大原社研の図書分類表(別表)にあるように当時としてはかなり詳細な分類表である。分類表の詳しい検討は稿を改めるとして、この分類表の作成者は高野岩三郎1人ではなく、櫛田、久留間、細川嘉六、大内兵衛、権田保之助たちとの協同制作ではないだろうか。大原社研の初期の研究者たちは高野を慕う学徒らで構成されていることを考えれば、高野の呼びかけで研究所の分類表作りに参加することは極めて自然なことである。この分類表には、高野が思い描いた「社会主義および社会運動に関する図書、資料」(63)を収蔵する理想の図書館像があり、それを共有する形で櫛田、久留間、細川、大内、権田たちの社会経済問題等に対する射程も反映しているのであろう。また図書整理実務及び図書室の運営については図書主任森川隆夫、司書内藤起夫が所属した青年図書館員聯盟(64)の影響が考えられる。また青年図書館員聯盟の1929(昭和4)年8月第1回図書館講習会に荻野秀一を出席させ、図書室司書育成を図っている。

「大原社会問題研究所図書分類表」( )内の数字は便宜上漢数字とした。

1. 社会問題

(一) 社会問題一般 1 (二) 特殊研究 2 (三) 歴史及記述 3

(四) 労働運動

a. 労働運動一般 4 b. 亜米利加 5 c. 豪洲 6 d. 欧羅巴 7 e. 日本 8

f. 其他 9

(五) 産業組合運動 10 (六) 労働立法 11 (七) 少年労働 12 (八) 婦人問題 13 (九) 失業及職

業紹介 14 (十) 和解及仲裁制度 15 (十一) 社会保険 16 (十二) 利潤分配及幸福増進設備 17

(十三) 土地及小作人問題 18 (十四) 中流階級問題 19 (十五) 生計費 20 (十六) 住宅問題

21 (十七) 租税其他ノ財政問題 22 (十八) 雑 23

2. 社会事業 (一) 公民学 24 (二) 一般自治問題 25 (三) 都市問題 26 (四) 農村問題 27 (五)

貧困問題 28 (六) 救济事業 29 (七) 児童保護 30 (八) 婦人救護 31 (九) 犯罪学及矯化制度

32 (一〇) 雑 33

3. 社会主義 (一) 社会主義一般 34 (二) 集産主義 35 (三) ギルド社会主義 36 (四) サンディ

カリズム 37 (五) 共産主義 38 (六) 無政府主義 39 (七) 雑 40

- 4 . 社会衛生 (一) 基礎医学 41 (二) 臨床医学 42 (三) 歴史及伝記類 43 (四) 通俗医学書類  
44 (五) 雑 45
- 5 . 経済学 (一) 経済学一般 46 (二) 特種研究 47 (三) 経済学史 48 (四) 経済史  
及経済事情 49 (五) 原始産業 50 (六) 工業 51 (七) 貨幣銀行 52 (八) 商業 53  
(九) 交通 54 (十) 経営学会計学 55 (十一) 独占及合同 56 (十二) 人口問題 57  
(十三) 殖民 58 (十四) 保険 59 (十五) 財政 60 (十六) 雑 61
- 6 . 社会学 (一) 社会学一般 62 (二) 社会科学史 63 (三) 歴史及記述 64 (四) 純正  
社会学 65 (五) 応用社会学 66 (六) 雑 67
- 7 . 統計学 (一) 統計学一般 68 (二) 人口統計 69 (三) 経済統計 70 (四) 社会統計  
71 (五) 各国統計 72 (六) 都市統計 73 (七) 雑 74
- 8 . 政治学 (一) 政治 75 (二) 法律 76
- 9 . 哲学 (一) 哲学 77 (二) 宗教 78 (三) 教育 79
- 10 . 理学 80
- 11 . 歴史地理 (一) 歴史 81 (二) 地理 82
- 12 . 文学 83
- 13 . 定期刊行物 84
- 14 . 辞書類 85
- 15 . 雑 86

## 注記

### はじめに

(1) 大原文庫の歴史：「社会問題の解決は公平なそして飽くまで根本的な立場からするを要し、決して一部利害関係者の見地からすべきではない。それには問題の基礎に溯り、我国の実際に鑑み、且諸外国の実例に徴して、充分研究調査を遂げなければならぬ。」というのが大原孫三郎の大原社会問題研究所設立の趣旨である。1919(大正8)年2月9日創立。1920(大正9)年5月9日天王寺区伶人町24番地に大原社研の新築成る。同年7月9,10日開所式。所長は当時東京帝国大学教授だった高野岩三郎である。社会問題の科学的研究の機関として活動するが、1937(昭和12)年土地、建物、図書約7万冊を20万円で大阪府に譲渡し、大原社研は1937(昭和12)年、東京都淀橋区柏木(現新宿区)の日本画壇の重鎮山内多門の旧邸に移転したが、1945(昭和20)年5月25日の空襲で焼失、貴重書等を入れた土蔵だけが焼け残る。戦後、法政大学と合併、1950(昭和25)年財団法人法政大学大原社会問題研究

---

所として再出発し、現在は財団法人を解散し法政大学の附属研究所として活動を続けている。初代所長は久留間鮫造である。(『大原社会問題研究所五十年史』法政大学大原社会問題研究所 1970)

なお大阪府立天王寺分館が引き継いだ「大原文庫の蔵書構成は、和漢書 24,126 冊、洋書 37,637 冊、総数 61,763 冊であり、主に社会科学関係の資料が多く、経済学を中心として、政治・法律・労働・教育・社会福祉等に関する図書である。」(加藤和基「大原文庫紹介」『大阪府教育委員会月報 特集大阪府立夕陽丘図書館』No.306 大阪府教育委員会 1975.7)

- (2) 加藤和基(元大阪府立中央図書館)「大原文庫稀購書紹介1」『大阪府立夕陽丘図書館だより ゆうひがおか』No.1 大阪府立夕陽丘図書館 1974.10、「大原文庫稀購書紹介2」『大阪府立夕陽丘図書館だより ゆうひがおか』No.2 大阪府立夕陽丘図書館 1975.1、「大原文庫紹介」『大阪府教育委員会月報 特集大阪府立夕陽丘図書館』No.306 大阪府教育委員会 1975.7、「大原文庫について—その由来と利用」『大阪府立夕陽丘図書館だより ゆうひがおか』No.11 大阪府立夕陽丘図書館 1977.10、「大原社会問題研究所の足跡」『大阪府立図書館紀要』第4号 大阪府立図書館 1968.3.31

石井敬三(元大阪府立中之島図書館)「大阪府立夕陽丘図書館蔵 大林宗嗣旧蔵書目録 洋書の部」『大阪府立図書館紀要』第25号 大阪府立図書館 1989.3.31、「大原文庫研究の栞」No.1~No.3 石井敬三編発行 1989~1990、「欧州図書収集物語 大原社研・櫛田民蔵・久留間鮫造のことなど」『大阪府立大学附属図書館報 図書館だより』第29号 大阪府立大学附属図書館 1992.3.20、「大原社会問題研究所図書室の図書整理作業」『転換期における図書館の課題と歴史 石井敦先生古稀記念論集』石井敦先生古稀記念論集刊行会編 緑蔭書房 1995.9、「大阪府立夕陽丘図書館蔵 大林宗嗣旧蔵書目録 和書の部」『大阪府立図書館紀要』第26号 大阪府立図書館 1990.3.31、「<研究ノート> 大林宗嗣旧蔵書・書き込みの概要」『大阪府立図書館紀要』第27号 大阪府立図書館 1991.3.31 \*(注)『大阪府立図書館紀要』の25,26,27号は大阪府立中之島図書館と大阪府立夕陽丘図書館の共同編集発行である。

- (3) 中之島図書館百周年事業の一環として2004(平成16)年2月24日に発刊された。非売品。

#### 1-1 資料蒐集の始まり

- (4) 大内兵衛「大原社研と労働年鑑」『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.116 法政大学大原社会問題研究所資料室 1966.1 25頁 大内兵衛：1888(明治21)年~1980(昭和55)年。1920(大正9)年には大原社研の囑託となる。

- (5) 大内兵衛「大原社研と労働年鑑」『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.116 法政大学大原社会問題研究所資料室 1966.1 “高野先生”は高野岩三郎のこと。高野岩三郎：1871(明治4)年~1949(昭和24)年。大正・昭和期の統計学者、社会運動家、東京帝国大学教授、大原社会問題研究所長。(『新

---

訂・増補人物レファレンス事典』日外アソシエーツ、2000年)

(6) 『大原社会問題研究所五十年史』法政大学大原社会問題研究所 1970

(7) 櫛田民蔵：明治 1885(明治 18)年 11 月 16 日～1934(昭和 9)年 11 月 16 日。大正・昭和期の経済学者。

(『新訂・増補人物レファレンス事典』日外アソシエーツ、2000年)

(8) 久留間鮫造：1893(明治 26)年 9 月 24 日～1982(昭和 57)年 10 月 20 日。(『新訂・増補人物レファレンス事典』日外アソシエーツ、2000年)

#### 1-2 櫛田民蔵

(9) 宇佐美誠次郎「大原研究所所蔵の『資本論』初版本とクーゲルマン文庫、ハースバハ文庫など」(下)

『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.206 法政大学大原社会問題研究所資料室 1974.8

(10) Elitzbacher 文庫の 956 冊の譲渡価格は 8 千 911 円 58 銭 9 厘。(注(9)の宇佐美文献)。櫛田民蔵の略歴等について次の資料に詳しい。「故櫛田民蔵氏肖像及略歴」「櫛田民蔵氏著作目録」「研究員櫛田民蔵氏の訃(所報)」、「櫛田民蔵氏追憶会(所報)」、「月刊大原社会問題研究所雑誌」昭和 9 年 12 月号、昭和 10 年 1 月号。「櫛田民蔵顕彰碑建立さる」、「高野岩三郎・櫛田民蔵両先生追憶会」、「法政大学大原社会問題研究所資料室報」No.241, No.245 法政大学大原社会問題研究所資料室 1978.1、1978.6、宇佐美誠次郎「櫛田民蔵蔵書に関連して」『法政大学大原社会問題研究所研究資料月報』No.298 法政大学大原社会問題研究所資料室 1983.7

「櫛田民蔵氏追憶会」からの一節に「会場には黒幕のバック前に白い花輪に包まれて故人の遺影が掲げられ、その前に大原孫三郎氏より贈られた一对の供花が置かれたほかには故人の著作目録、遺著及絶筆の手稿(本誌所載)が中央の卓上を飾るのみで、故人の風格にふさわしく極めて簡素。」とある。

(11) 法政大学大原社会問題研究所が所蔵している。Elitzbacher について宇佐美誠次郎が久留間鮫造の印象を紹介している。「久留間先生の思い出によると、エルツバッハーは顔が黒く、感じのいい人柄であった。ベルリン郊外の立派な家に住んでいたが、レストランで会食したとき、床におとしたチーズをひろってたべていたのが印象に残っている。また、エルツバッハーは背の低い金井延と同級だったので、背の高い久留間さんに、君は本当に日本人か、君のお父さんは日本人か、と聞かれたということである。」(注(9)の宇佐美文献、23頁の〔注70〕)

(12) 林要『おのれ・あの人・この人』法政大学大出版局、1970

(13) リャザーノフ、1870～1938 リャザーノフは筆名。ソヴィエト・ロシアの経済学者、歴史家、マルクス文献学者。(『社会科学大事典』19巻 1971)1921年から31年までマルクス・エンゲルス研究所

---

の所長。(注(9)の宇佐美誠次郎文献、8頁)

(14) 櫛田民蔵・久留間鮫造関係文書。法政大学大原社会問題研究所蔵。書店名は記述のとおり。

#### 1-3 久留間鮫造の図書蒐集

(15) 『コンサイス外国地名事典』第3版、三省堂 1998

(16) 「社会科学五〇年の証言 10 久留間鮫造 第3回 欧州の思い出」『週刊エコノミスト』1973(昭和48)年9月4日 毎日新聞社

(17) 法政大学大原社会問題研究所蔵「久留間鮫造関係ファイル」

(18)(19) 久留間鮫造の高野岩三郎宛の手紙(大正10年4月22日付)法政大学大原社会問題研究所蔵

(20) 久留間鮫造「学究生活の思い出」『思想』No.350 岩波書店 1953.8

#### 1-4 久留間とイギリスの書店

(21) 大阪府立中央図書館蔵 大原文庫関係未整理資料

(22) 法政大学大原社会問題研究所蔵

(23) 高野岩三郎への手紙、1921(大正10)年4月22日付け、法政大学大原社会問題研究所蔵

(24) 「社会科学五〇年の証言 10 久留間鮫造 第3回 欧州の思い出」『週刊エコノミスト』1973(昭和48)年9月4日 毎日新聞社

(25) 「社会科学五〇年の証言 9 久留間鮫造 第2回 大原社会問題研究所の草創期」『週刊エコノミスト』1973(昭和48)年8月23日号

#### 1-5 図書蒐集リスト

(26) 大阪府立中央図書館蔵 大原文庫関係未整理資料

(27) 「社会科学五〇年の証言 10 久留間鮫造 第3回 欧州の思い出」『週刊エコノミスト』1973(昭和48)年9月4日 毎日新聞社

#### 1-6 蒐集と留学生

(28) 高田慎吾から久留間鮫造への手紙、1921(大正10)年6月7日付け。法政大学大原社会問題研究所蔵

(29) 久留間鮫造から高田慎吾への手紙、1921(大正10)年1月30日付け。法政大学大原社会問題研究所蔵

(30)(31) 高田慎吾から久留間鮫造への手紙、1921(大正10)年3月23日付け 法政大学大原社会問題研究所蔵

(32) 『日誌』法政大学大原社会問題研究所蔵 大阪時代の研究所日誌、『日誌』は大原研究所の業務日誌のようなものである。全26冊。第1冊1919(大正8)年3月17日～10月20日から第26冊1936(昭和11)年7月25日～1937(昭和12)年2月28日までのものを指す。以後『日誌』とはこれを指す。

(33) 小河滋三郎：1864(文久3)年～1925(大正4)年。大原救済事業研究所の委員。大原社研評議員。 河

---

上筆：1879(明治 12)年～1946(昭和 21)年。河田嗣郎：1883(明治 16)年～1942(昭和 17)年。明治～昭和期の経済学者。大阪市立商大学長。米田庄太郎：1873(明治 6)年～1945(昭和 20)年。明治～昭和期の社会学者。同志社大学、京都帝大教授。日本の社会学会にタルド、ジンメルなどを紹介。(『新訂・増補人物レファレンス事典』日外アソシエーツ、2000年)

(34) 「あなたもつかれたでせうが わしも大分つかれた。此処で一つ切り上げて一緒に旅行でもしませう。」と Highgate の久留間に宛てた櫛田の手紙がある。年代不詳。『櫛田民蔵・日記と書簡』(社会主義協会出版局 1984)はこの手紙を“大正 11 年推定”としている。

(35) 櫛田民蔵・久留間鮫造関係文書。法政大学大原社会問題研究所蔵

(36) 「社会科学五〇年の証言 9 久留間鮫造 第 2 回 大原社会問題研究所の草創期」『週刊エコノミスト』1973(昭和 48)年 8 月 23 日号

(37) 「社会科学五〇年の証言 9 久留間鮫造 第 2 回 大原社会問題研究所の草創期」『週刊エコノミスト』1973(昭和 48)年 8 月 23 日号

#### 1-7 初期の資料整理

(38) 内藤赳夫：1896(明治 29)年 4 月 9 日～1944(昭和 19)年 4 月 2 日。1910(明治 43)年京都基督教青年会英語学校高等科を卒業と同時に京都帝国大学附属図書館に 1910(明治 43)年 5 月 3 日から 1919(大正 8)年 2 月 27 日まで勤務し、1919(大正 8)年 7 月に大原社会問題研究所図書館に採用された。大原研究所に入所してから勉学の機会を与えられ 1923(大正 12)年に関西大学専門部経済科を卒業、更に 1925(大正 14)年には大阪外国語学校(現大阪外国語大学)別科独逸語科を終了している。内藤も入会時期は森川隆夫より後になるが青年図書館員聯盟の会員であった。内藤は青年図書館員聯盟で森清の『日本十進分類法』作成に協力した。森は『日本十進分類法』初版のハシガキで、分類表作成に協力してくれた人々の名前をあげて感謝の言葉を残しているが、その中に社会学分野の助力者として内藤赳夫の名前が挙がっている。また内藤の業績として挙げておきたいのは『日本マルクス主義文献』と、そのドイツ語訳『Die Japanische Literatur über Marx, Engels und Marxismus von 1919 bis Ende 1927』、内藤は 1927(昭和 2)年高野とロシアのマルクス・エンゲルス研究所を訪れロシア語訳を同研究所に寄贈している。萩野秀一と協力して編纂した『エルツパッヘル無政府主義文献』や自著『労資協調論者としての片山潜』がある、いずれも大原社会問題研究所雑誌に発表したものである。大原社研が東京移転の際、森戸辰男らは内藤の再就職先として大阪府に採用を打診していたが実現しなかった。

(「東京移転に関する資料」『研究資料月報』No.304 法政大学大原社会問題研究所 1984.2)



- 
- (39) 『京都大学附属図書館六十年史』京都大学附属図書館 1961。森川の経歴等は法政大学大原社会問題研究所蔵。『人名簿』 森川隆夫：1884(明治17)年8月17日～1932(昭和7)年11月18日。森川は1927(昭和2)年11月25日に発足した青年図書館員聯盟の創設に参画。第1期から第3期の評議委員、第1期、2期の理事員を勤めた。大阪図書館協会の創立調査委員に選ばれ、その後理事職に就いている。(『青年図書館員聯盟十年略史 1927 1937』 青年図書館員聯盟本部 1937、仲田憲弘「近畿図書館倶楽部(近畿図書館協議会)事歴稿」『大阪府立中之島図書館紀要』第17号 1981.3.31)
- (40) 法政大学大原社会問題研究所蔵。『人名簿』。久留間は年俸1千100円、月手当30円で合計1千460円。
- (41) 『大阪府統計書 大正8年』大阪府 1921
- (42) 『大原社会問題研究所五十年史』には住所までは書いていないが、『倉敷紡績百年史』には当時の倉敷紡績の大阪出張所は大阪市西区江戸堀北1丁目とあるため、臨時図書室は西区と断定した。
- (43) 『西区史』第3巻 西区史刊行委員会編 清文堂出版 1979
- (44) 『倉敷紡績百年史』倉敷紡績株式会社 1988
- (45) 『大原社会問題研究所五十年史』法政大学大原社会問題研究所 1970
- (46) 大原社研の建築は、本館は2階建て1階10室2階10室の計20室があった。建築はソルヴェー研究所を模したと紹介される。それはベルギー科学者 Ernest Solvay が建てた研究所であろうと思われる。大原社研の設計者名などは判明していない、ただ書庫の増築を依頼されたのは内藤という技師であったことが『日誌』からわかるのみである。

#### 1-8 事務会の決定事項

- (47) 『事務室事務取扱上ノ申合せ〔昭和5年5月23日事務会ニ於テ決定〕』法政大学大原社会問題研究所蔵
- (48) 細川嘉六：1888(明治21)年～1962(昭和37)年。大原社研入所は1920(大正9年)。治安維持法違反で1933(昭和8)年3月20日検挙、4月20日起訴、犯罪事實は共産党シンパサイザー。(『復刻版特高月報 昭和8年4月』内務省警保局保安課 政経出版社)、1935(昭和10年)復職。 鷹津繁義：1885(明治18)年～1969(昭和44)年。1919年(大正8)年3月1日大原社研入所。1937(昭和12)年大阪府社会事業会館主事。社会福祉法人石井記念愛染園の常務理事でもあった。 越智道順：1893(明治26)年？～1965(昭和40)年。治安維持法違反で1933(昭和8)年3月14日検挙、4月7日起訴、犯罪事實は党シンパサイザー。(『復刻版特高月報 昭和8年4月』内務省警保局保安課 政経出版社)、越智道順は大原社研在職期間中3冊の翻訳書を出版した。1923(大正12)年『産業民主制論』(ウェブ夫妻著) 越智は久留間鮎造、宇野弘蔵、山村喬、山名義鶴たちと共同翻訳者に名を連ねている。『資

---

本主義のヨーロッパと社会主義のロシア』(ブライス著)は、大原社会問題研究所パンフレット No.17 として大原社研から 1924(大正 13)年 12 月 5 日出版された。3 冊目は同人社から 1926(大正 15)年 5 月、大原社研の同僚萩原久興と共同翻訳した『英国は何処行く』である。そして越智が大原社研から去った後に『戦時経済とインフレーション ドイツ・マルクの混乱より安定まで』(H・シャハト 著)が 1935(昭和 10)年、叢文閣から出版されている。大原社研退所後渡米、ロスアンゼルス の邦字新聞「羅府新報」の主筆。『南加州日本人移民史』を纏めた。(『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.253 法政大学大原社会問題研究所資料室 1979.3) 後藤貞治：1896(明治 29)年～1945(昭和 20)年。大原社研入所は 1921(大正 10)年。“大原研究所の名物男”ぶりについては『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.245 1978.6 を参照のこと。笠信太郎：1900(明治 33)～1967(昭和 42)。大原社研入所は 1928(昭和 3)年。1936(昭和 11)年退所。昭和期の新聞人、評論家。朝日新聞社論説主幹。(『新訂・増補人物レファレンス事典』日外アソシエーツ、2000 年)

(49) 大原孫三郎夫人寿恵子は 1930(昭和 5)年 4 月 25 日逝去。数え年 48 歳。(『大原孫三郎伝』大原孫三郎伝刊行会編 中央公論事業出版製作 1983 非売品)。内藤起夫は全国図書館大会出席を兼ね本邦社会主義文献のため上京中であった。この時事務会は第 1 木曜日から第 2 木曜日に変更となった。

(50) ドイツ、ベルリンの古書店。Hugo Streisandは書店主の名前で、店名でもある。櫛田民蔵、向坂逸郎、有沢広巳、細川嘉六らが訪れて親交を結んだ。Hugo Streisandは資料蒐集する日本人にとっては神様のような古書店主だった。ナチスに迫害を受けたStreisandだったが1932(昭和7)年の販売カタログにはヒトラーの著書『わが闘争』が掲載されている。“Hitler, Adolf : Mein Kampf. Sonderausgabe. München 1932. [E17] Zwei Bände in Lw. Je 2.85”。フーゴー・シュトライザンド「ある古本屋の生涯」川崎八郎訳、向坂逸郎解説『学燈』1952(昭和27)年5月号の中に「私が特に国家学の領域を扱っていた関係から、この頃研究のためにドイツへ留学していた日本人の学者のなかから、非常に興味深い幾人かの客が、私の店にあらわれた。最初に訪れた人の 1 人は、日本の百萬長者オーハラ(大原)の息子が大金で創立した大原社会問題研究所の指導者であった。若き大原は、友人の社会主義者たちと共同研究しているうちに、私のきいたところによると、「資本主義の誤謬と社会主義の福祉」とを確認し、抗議として、この研究所を創立したのであった。」との記述がある。

(51) 荻野秀一は 1908(明治 41)年 1 月生れ、和歌山県出身。1920(大正 9)年 5 月 12 日図書室給仕として月手当 15 円で採用された。(『日誌』1920(大正 9)年、法政大学大原社会問題研究所蔵『人名簿』)。「社研を退かれ和歌山高商の図書課に勤務されている。-中略-その後、1943 年(昭 18)には東京帝国大学東洋文化研究所に移られたが、敗戦の混乱の中、1946 年(昭 21)に退職されている。1947 年(昭 22)

---

に大阪府立図書館に入られ、その後、天王寺分館の司書係長、本館の目録分類係長、調査係長等歴任の後、1968年(昭43)3月31日をもって退職されている。」(石井敬三「荻野秀一氏のこと」『大原文庫研究の栞』No.3 石井敬三編発行1990.4.23)

(52) 法政大学大原社会問題研究所蔵。「見計購入手続」

(53) 丸善の大阪出張所の開設は1893(明治26)年。1899(明治32)年2月支店に昇格。1921(大正10)年11月26日新築開店。大原社研の1919(大正8)年の「仕分簿」の洋書欄に京都丸善の文字がある。丸善京都支店は1907(明治40)年6月に開店した。(『丸善百年史』上・下・資料編 丸善 1980-81)

(54) 石井記念愛染園とは、大原社研の創立者大原孫三郎が人生で最大の感化を受けた人にクリスチャンで社会事業家の石井十次がいた。その石井が大阪に開いた民間の社会事業福祉施設・岡山孤児院大阪分院を母体とする。石井は途半ばの1914(大正3)年に死去、後にその意志を継いだ大原が財団法人石井記念愛染園を開いたのは1918(大正7)年であった。理事は大原孫三郎、大阪朝日新聞社長上野理一、大阪毎日新聞社長山本彦一、済世会大阪府病院長石神亮、法学博士小河滋次郎らであった。鷹津によれば、愛染園は愛染橋夜学校や保育所を経営したほか「新に救済事業研究室を設けて図書を購入しその他諸般の救済事業の科学的研究を為す」ことが決議され、「その計画が着々実を結んで後にはこの救済事業研究室が胚胎となって大原社会問題研究所を生」んだと解説している。(鷹津繁義『石井記念愛染園三十五年小史』社会福祉法人石井記念愛染園 1953 非売品)

(55) 『大原社会問題研究所栞』法政大学大原社会問題研究所蔵、発行年不詳。

(56) 越智が作成したものを大林宗嗣が英訳したと『大原社会問題研究所五十年史』にある。なお大林の英訳の原稿は法政大学大原社会問題研究所に保管されている。

(57) 法政大学大原社会問題研究所編発行 1970

(58) 法政大学大原社会問題研究所に保管されている。

(59) 宇佐美誠次郎「大原研究所所蔵の『資本論』初版とクーゲルマン文庫、ハースバハ文庫など(下)」『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.206 法政大学大原社会問題研究所資料室 1974.8

(60) 『大原社会問題研究所五十年史』法政大学大原社会問題研究所編発行 1970

(61) 「東京移転に関する資料」『研究資料月報』No.304 法政大学大原社会問題研究所 1984.2

#### 1-9 大原社研の図書と資料

(62) 「資料室の栞」大原社研資料室 1929 法政大学大原社会問題研究所蔵

(63) 大内兵衛「大原社研と労働年鑑」『法政大学大原社会問題研究所資料室報』No.116 法政大学大原社会問題研究所資料室 1966.1

---

(64) 青年図書館員聯盟が図書館員の教養の向上、図書館管理法準則の確立など 5 つの綱領を掲げ、“一般民衆”の図書館に対する要求に応じるべく、閉鎖的な図書館を否定し、先進国の図書館の模倣でもなく、図書館と図書館職員を変革し自ら理論的、組織的研究をし、図書館員が連帯して図書館を刷新するために立ち上がったのは昭和 2 年のことであった。(『青年図書館員聯盟十年略史 1927 1937』青年図書館員聯盟本部 1937)。『日誌』の 1923(大正 12)年 9 月 29 日に「図書カード代共他 72.40 間宮払」の記述があり、青年図書館員聯盟の書記で図書館用品を販売した間宮不二雄経営の間宮商店から図書館用品を購入している。